

日本赤十字社に献血をなされた方・ご家族の皆様へ

「熱帯熱マラリア原虫の赤血球侵入機構および細胞内物質輸送機構の解析」 について

はじめに

鳥取大学医学部医動物学分野では、日本赤十字社に献血して作製された血液製剤で、日本赤十字社による検査によって不適合となり医療に用いられない血液製剤をもとに研究を実施しています。

この研究は鳥取大学医学部倫理審査委員会の承認を経て、医学部長の承認を受けています。詳細は以下のとおりです。

1. 研究概要および利用目的・方法

本研究では、現在においても世界で年間40万人が死亡する感染症である熱帯熱マラリアの、予防・治療の開発につながる研究を実施するため、日本赤十字社に献血された血液を元に製造された血液製剤のうち、日本赤十字社による検査で不適合となり医療に用いる事のできない血液製剤を有償で譲渡を受けて、熱帯熱マラリア原虫の培養に用いています。ヒト赤血球に感染する熱帯熱マラリア原虫の弱点を見出すべく、特にマラリア原虫の赤血球への侵入機構および細胞内物質輸送機構に焦点をあて解析を行う研究を行います。

血液製剤（医療に用いる事のできない血液製剤）は、鳥取大学医学部医動物学分野で熱帯熱マラリア原虫の培養に用いられます。なお、血液製剤（医療に用いる事のできない血液製剤）は、研究責任者が責任を持って保管、管理します。

本研究に参加される献血者は、他の研究参加者への個人情報保護や本研究の独創性の確保に支障がない範囲で、研究計画書及び研究の方法についての資料を入手又は閲覧することができます。希望される方は、遠慮なく問合せ窓口にお申し出ください。

2. 取り扱う血液製剤

献血者が献血した血液を元に製造された血液製剤のうち、検査に適合せず医療に用いる事のできないO型の濃厚赤血球液、AB+型の血漿製剤が熱帯熱マラリア原虫を培養するための材料として用いられます。献血された方の情報は一切収集いたしません。

3. 研究期間

この研究は、鳥取大学医学部長が研究の実施を許可した日から2026年12月31日まで行う予定です。

4. 個人情報保護の方法

血液製剤（医療に用いる事のできない血液製剤）は、研究責任者が責任をもって保管、管理します。献血された方の情報は日本赤十字社によって保管されますが、鳥取大学医学部医動物学に伝達される事は一切ありません。このようにして患者さんの個人情報の管理については十分に注意を払います。

5. 研究への情報提供による利益・不利益

利益・・・今回の研究に献血を通じて血液製剤をご提供いただいた献血者さん個人には、特に利益と考えられるようなことはございませんが、研究の成果は、将来のマラリア対策の進歩に有益となる可能性があります。なお、献血を通じて血液製剤を使用させていただいた献血者への謝礼等もありません。

不利益・・・献血された血液であるため、特にありません。

6. この研究終了後の情報の取り扱いについて

今回、集めさせていただき患者さんの血液製剤（医療に用いる事のできない血液製剤）は熱帯熱マラリア原虫の培養以外に用いられることはありません。ただし、他の種類のマラリア原虫の培養に用いる可能性はあります。その場合は、新たに研究計画をたてて研究に参加する医療機関の倫理審査委員会での審査を経て、他のマラリア原虫の研究に使用させていただきます。

血液製剤（医療に用いる事のできない血液製剤）は、当該研究の終了について報告された日から5年を経過した日又は当該研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日までの期間保存します。保存期間終了後は、適切に廃棄します。

7. 当該臨床研究に係る資金源について

本研究は、鳥取大学の運営費交付金で行っており、特定の企業・団体等からの支援を受けて行われるものではなく、利益相反状態にはありません。

8. 研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、献血者の個人が特定される情報は全く含まれない状態で公表します。献血者の情報の秘密は厳重に守られますので、第三者に個人情報明らかになることはありません。

9. 知的財産権の帰属について

本研究の結果、特許などの知的財産が生じる可能性もございますが、その権利は鳥取大学に帰属し、あなたには帰属しません。

10.問い合わせ窓口

本研究についてのご質問など、この研究に関することは、下記の窓口までお問い合わせ下さい。

【研究責任者】

大槻 均 鳥取大学医学部感染制御学講座 医動物学分野 准教授
〒683-8503 鳥取県米子市西町 86
TEL：0859-38-6093

*この研究に関する情報は、鳥取大学医学部附属病院のホームページに掲載しております。

(URL：<http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/introduction/3107/>)